

石炭の価格推移と需給動向（2025年3月）

石炭開発部企画課 大竹正巳

価格推移（3月）

- ・ 高品位一般炭 CIF 欧州：地政学的リスクとガス供給懸念から初旬に 97\$/トン台に上昇した後、96～98\$/トン台で推移。コロンビア Cerrejon 炭鉱減産の発表を受けて月末に 100\$/トン台に値上がり。
- ・ 高品位一般炭 FOB 豪州：需要低迷により約 98\$/トンまで続落後、インドネシア石炭指標価格の適用義務化による混乱から豪州炭に関心高まり 100\$/トン近くに上昇するも、下旬に 95\$/トン台に下落。
- ・ 強粘結炭 FOB 豪州：アジア市場での鉄鋼需要低迷を背景にスポット取引は限定され、月初の約 188\$/トンから中旬の約 166\$/トンまで続落した後、下旬は 167\$/トン前後のレンジ相場で推移。

需給動向（一般炭）

- ・ インドネシアの1月の石炭輸出量は前年同月比+0.8%の4,124万トン。主要需要国の中国、インド、日本が減少する一方、韓国、台湾、東南アジア諸国で増加。低品位炭の割合が拡大して88%に。
- ・ 中国の1～2月の原炭生産量は前年同期比+7.7%の7億6,533万トンで過去最高。2月の一般炭輸入量は前年同月比▲3.2%の2,421万トンと、原炭生産増大の影響で輸入依存度が低下。
- ・ 中国の1～2月の総発電量は前年同期比▲1.3%の1,492TWhで、5年ぶりに前年比マイナス伸び率。太陽光が前年同期比+27.4%と大幅増加の一方、火力は▲5.8%（1,021TWh）と減少。
- ・ インドの3月の国内炭生産量は前年同月比+1.6%の1億1,854万トン、国内炭増産政策の下で過去最高を記録。2024/25年度の国内炭生産量は前年より5.0%増加し、初めて10億トン超え。
- ・ インドの2024/25年度の総発電量は前年度比+4.9%の1,823TWhに拡大するも、伸び率は前年度から鈍化。石炭火力発電の伸び率は+3.0%、総発電量に占める割合は71.1%に減少。
- ・ 日本の2月の一般炭輸入量は前年同月比+12.3%の1,011万トンと増加するも、平年と比べると低い水準。瀝青炭の平均輸入単価は約2.2万円/トンで、前年より4千円程度の値下がり。

需給動向（原料炭）

- ・ 中国の2月の原料炭輸入量は前年同月比+12.4%の885万トンで、1月に引き続き高水準を維持。粗鋼生産量は前年同月比▲3.3%の7,890万トンに減少し、2か月連続で前年割れ。
- ・ 日本の2月の原料炭輸入量は前年同月比▲19.6%の293万トンに減少、鉄鋼需要低迷を背景に過去10年間で最低水準。粗鋼生産量は前年同月比▲8.5%の640万トンで、12か月連続の前年割れ。
- ・ 世界の2月の粗鋼生産量は前年同月比▲3.4%の1億4,470万トン。中国の減産が影響し2か月連続のマイナス伸び率。インドは+6.3%の1,270万トンで高水準を維持。

一般炭の価格推移

一般炭価格は、2022 年前半にはロシアへの制裁国（EU 諸国、日本等）がロシアからの石炭輸入を停止することによる他ソースへの代替需要の発生、および欧州における天然ガス代替としての石炭需要の増加により、極端な高値に急騰した。2022 年 9 月になると、制裁に参加しない主要石炭輸入国（中国、インド、トルコ等）が、国際市況から大幅にディスカウントされたロシア炭を積極的に輸入し、それらの国々が従来輸入していた南アフリカ、コロンビア、米国等の一般炭が欧州に供給される「再バランス化」が進展したことにより、これまでの極端なタイト感が薄れて一般炭価格は低下傾向となった。

➤高品位一般炭 CIF 欧州

欧州の一般炭需要は、2021 年～2022 年に天然ガスの供給ひっ迫により増加したが（2022 年 3 月～8 月に 400\$/トン超）、2023 年 1 月からは 200\$/トンを下回り減少に転じている。およそ過去一年間の高品位一般炭 CIF 欧州価格は概ね 100～120\$/トンの範囲で推移する中、ロシア石炭企業の制裁対象への追加、中東情勢の緊迫化、米国 Baltimore 港の橋崩落事故、ロシアとウクライナの軍事衝突等により短期的に上昇する局面が見られた。とりわけ、8 月初旬のガス輸送ルートに近いロシア西部へのウクライナ軍の越境攻撃により欧州における天然ガス供給ひっ迫懸念が高まったことで、8 月は 120\$/トンを超える展開となり、中旬には 2023 年 12 月以来の高値となる 127\$/トン近くまで上昇した。さらに 11 月に入ってから中央ヨーロッパ諸国向けロシア産天然ガスのパイプライン供給停止懸念が再燃し、欧州電力市場における天然ガス価格が急騰した影響を受けて 8 月以来の 125\$/トン超えとなる場面も見られたが、電力卸価格の軟化を背景に下落基調となった。

3 月の市況を振り返ると、シヨルダーシーズンに入り石炭に係るファンダメンタルズに大きな変化は見られないものの、地政学的な緊張の高まりとガス供給懸念が再び浮上したことで欧州電力市場のエネルギー価格全体が押し上げられ、約 1 年ぶりの安値となる 91\$/トンまで低下した 2 月の下落基調から一転して上昇する展開となり、初旬に 97\$/トン台に回復した。その後しばらくは、EU の対ロシア制裁、米国による関税政策、ロシア・ウクライナ軍事衝突等による影響で燃料価格が変動する中で、96～98\$/トン台での小幅な動きで推移した。下旬に入り穏やかな天候と再エネ出力の増加、黒海での武力行使停止合意などで天然ガス価格が軟化する中、コロンビア Cerrejon 炭鉱の 2025 年の一般炭生産量を 500～1,000 万トン削減するとグレンコアが発表したことで供給タイト感が強まり上昇し、2 月 12 日以来の 100\$/トン台に回復した。

➤高品位一般炭 FOB 豪州

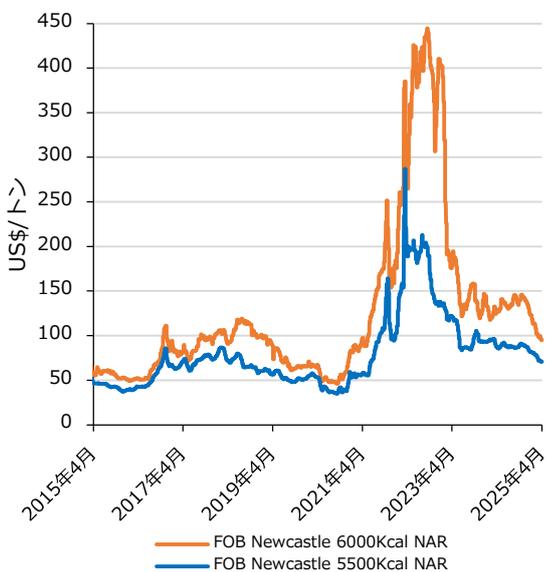
豪州産高品位炭価格は、CIF 欧州価格の高騰から 2 か月遅れの 2022 年 5 月～10 月にかけて一時 400\$/トンを超えたが、CIF 欧州価格の下落後も、他の銘柄と比べ大幅に高値の状態が続いていた。その後 2023 年 1 月頃より値下げ基調に入ってから、夏期の電力需要増や天然ガス価格の上昇による変動はあるものの、CIF 欧州よりも概ね 20～30\$/トン程度割高の 120～150\$/トン台で推移した。2024 年は、アジア市場の需要低迷により 5 月初旬の 140\$/トン台から緩やかに下落基調が続いていた中、夏期の冷房向け電力消費量の高まりにより石炭火力の需要が増加したことで 7 月初旬の 130\$/トンから値上げ局面に入り、地政学的リスクによる欧州やアジアでの天然ガス価格の上昇も影響し 8 月中旬には前年 12 月以来の 145\$/トン超えとなった。その後、世界的なエネルギー市況の軟化を背景に 9 月下旬まで 5 週連続の下落基調で 134\$/トン台まで低下したが、10 月に入ってから暖房需要に備えた電力会社の在庫補充

の動きから再び 145\$/トン台に上昇した。10 月下旬以降は、天然ガス市況の軟化を背景に需給が緩和されたことで小幅な下落傾向が続き、11 月は 136~142\$/トン台、12 月は 123~136\$/トン台、1 月は 113~122\$/トン台と徐々に低下し、2 月末には 2021 年 5 月以来となる 100\$/トン割れとなった。

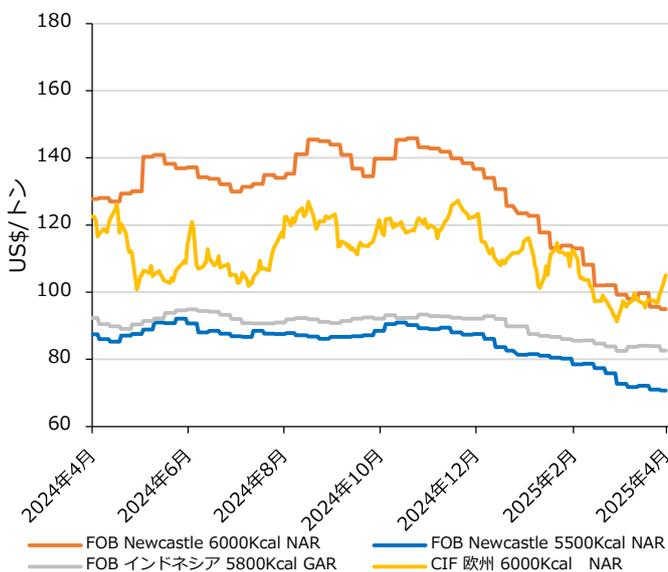
3 月に入ってから日本、韓国、台湾などのアジア市場での輸入需要低迷を背景にスポット取引は乏しく約 98\$/トンまで続落する中、インドネシアでは 3 月 1 日から輸出取引に石炭指標価格（HBA）の適用が義務化されたことで市場関係者間に混乱が生じて市場取引が停滞した影響で、豪州炭への関心が高まり、中旬には小幅な上昇ではあるが 100\$/トン近くまで値上がりした。しかしながら、引き続きアジア市場での輸入需要回復の兆しは見られず、再び下落基調となり下旬には 2021 年 5 月以来の 95\$/トン台に低下した。

高品位一般炭の輸入需要が振るわないことに加えて、これまで一般炭のアジア市場全体を下支えしてきた中国およびインドの国内需給が大幅に緩和し、余剰傾向の一般炭の受け入れ先がなくなっていることが、最近の価格下落の構造的背景と考えられる。

過去10年の豪州一般炭スポット価格



過去1年の一般炭主要指標スポット価格



出所：Argus Media Limited (<https://www.argusmedia.com/en>) のデータを基に作成

➤低品位一般炭 FOB 豪州

中国の旺盛な需要が下支えしているアジア向け一般炭は、2024 年 3 月下旬より気温上昇や景気減速等により、中国国内の需給が一時緩和したことでスポット価格が低下したが、5 月に入り夏季の需要期に向けた在庫積み増しの動きが始まったことで強含みに転じた。その後、低品位（5,500kcal/kg）炭 FOB 豪州スポット価格は需要低迷を背景に 5 月下旬の 92\$/トン台から緩やかな下落基調が続いていたが、7 月上旬に高品位（6,000kcal/kg）炭と同様に緩やかな上昇に転じ、その後は 86~88\$/トンのレンジでの小幅な値動きとなった。10 月上旬から中旬にかけては 90\$/トンをやや上回る高値をつけていたが、高品位一般炭の動きと調和して小幅な下落基調に転じ、11 月は概ね 88~89\$/トン台、12 月は 82~86\$/トン台、1 月は 80~81\$/トン台、2 月は 72~78\$/トン台と弱含みで推移した。

3 月も引き続き下落傾向が続いたことで上旬に 71\$/トン台まで低下したが、高品位一般炭と同様にイ

インドネシアでの HBA 適用義務化の影響により豪州炭への関心が高まったことで小幅に上昇した。しかし、アジア諸国での輸入需要低迷を背景に再び下落局面となり、下旬には 2021 年 6 月以来の 70\$/トン台に低下した。中国、インド、東南アジアでの低品位炭の国内需要は旺盛であるが、中国、インド、インドネシアにおける増産によって需給緩和が顕著となっている。

一般炭の需給動向

豪州

- ・ 一般炭最大の輸出港である NSW 州 Newcastle 港の 2 月の石炭出荷量は前年同月比▲1.0%の 1,091 万トンとなり、需要低迷と悪天候による出荷遅延で 2023 年 1 月以来の低水準に落ち込んだ前月の 1,031 万トンからは回復したものの、平年と比べると低い水準にとどまった。アジア市場においては季節的に電力需要は堅調であるが、石炭輸入需要が伸び悩んでいる影響が大きい。

インドネシア

- ・ インドネシア中央統計庁によると、1 月の石炭輸出量は前年同月比+0.8%の 4,124 万トンとなった。輸出量全体に占める低品位炭（亜瀝青炭、褐炭）の割合は 88.1%で、前年同月と比べて 3.1 ポイント増加した。輸出先の内訳では、主要需要国である中国、インド、日本向けが前年同月比で減少となる一方で、韓国、台湾、東南アジア諸国では増加し、特にバングラデシュ向けが+258.5%、台湾向けが+55.5%と伸び率が際立った。

中国

- ・ 中国国家統計局の発表によると、1~2 月の原炭生産量は前年同期比+7.7%の 7 億 6,533 万トンと、安全監査強化による減産で大きく落ち込んだ前年から回復し、1~2 月としては過去最高を記録した。
- ・ 海関総署が発表した 1 月の一般炭輸入量（褐炭含む）は、前年同月比+2.3%、前月比▲23.6%の 3,061 万トンとなった。主な輸入先は、インドネシア 1,894 万トン（構成比 62%）、豪州 646 万トン（同 21%）、ロシア 248 万トン（同 8%）、モンゴル 224 万トン（同 7%）の順。ロシアは一般炭に係る輸出関税の一時的撤廃措置を 12 月まで延長していたが、1 月以降は無煙炭、一般炭および原料炭の輸出関税を撤廃した。
- ・ 海関総署が発表した 2 月の一般炭輸入量（褐炭含む）は、前年同月比▲3.2%、前月比▲20.9%の 2,421 万トンに減少した。1~2 月に国内の原炭生産量が増加したことで、輸入依存度が低下したと見られる。主な輸入先は、インドネシア 1,519 万トン（構成比 63%）、豪州 383 万トン（同 16%）、ロシア 246 万トン（同 10%）、モンゴル 198 万トン（同 8%）。
- ・ 国家統計局が発表した 1~2 月の総発電量は前年同期比▲1.3%の 1,492TWh と、1~2 月では 5 年ぶりに前年比でマイナス伸び率となった。例年に比べ気温が高く暖房用電力消費量が抑制されたことが影響した。電源別に見ると、水力が前年同期比+4.5%、原子力+7.7%、風力+10.4%、太陽光+27.4%と軒並み増加する中で、火力は▲5.8%（1,021TWh）に落ち込んだ。
- ・ 1~2 月は原炭生産量が高水準であったが、電力需要が振るわなかったことで国内市場は供給過剰に陥り、高レベルの港湾在庫が国内炭および輸入炭の価格を押し下げている。3 月上旬に 2021 年 3 月

以来の 700 元/トン割れとなった一般炭スポット価格 (5,500kcal/kg 炭 FOB 渤海湾) は下落基調が継続し、3 月末時点で 677 元/トン (約 92\$/トン) に低下している。

インド

- ・インド中央電力庁が発表した 2 月の発電所向け一般炭輸入量は 507 万トンで、前月から 23.3%増加したものの、前年同月比では 19.7%減少した。内訳は、公営電力 (中央政府および州政府) が前年同月比▲85.4%の 27 万トンと大幅減少したのに対し、IPP (独立系民間発電事業者) は同+8.0%の 479 万トンと増加した。インド電力省は電力需要の増大を見込んで IPP に対して輸入炭専焼石炭火力発電所のフル稼働義務の期限を 2 月 28 日まで延長要請していたが、気温が上昇する夏期の電力消費拡大への対応としてさらに 2 か月間延長の指示を出した。
- ・石炭省が発表した 3 月の国内炭生産量は、前年同月比+1.6%の 1 億 1,854 万トンで、国内炭の生産体制強化を背景に過去最高を記録した。内訳を見ると、SCCL による生産量が前年同月比+22.1%の 891 万トン、自社向けを中心とした民間企業が同+14.8%と大きく伸びたのに対し、CIL は同▲3.1%の 8,581 万トンと減少した。2024/25 年度一年間の国内炭生産量は前年比+5.0%の 10 億 4,736 万トンとなり、年度の実績が初めて 10 億トンを超えた。
- ・3 月末時点の発電所向け石炭在庫は、前月末から約 353 万トン増の 5,811 万トンとなり、在庫維持日数 (在庫量÷一日当りの消費量) は約 20 日に延びた。国内石炭生産量の増加によって、例年電力消費量が増え始める 3 月を前に前年同月比+22%の高水準の在庫量となった。
- ・インド中央電力庁の発表による 3 月の総発電量は前年同月比+6.1%の 158TWh となり、3 月単月としては過去最高を記録した。平年よりも平均気温が高く、異常な高温が発生している地域もあることで、堅調な電力需要の高まりが発電量を押し上げた。石炭火力発電についても前年同月比+4.8%の 118TWh と高水準となった。
- ・2024/25 年度一年間の総発電量は前年度比+4.9%の 1,823TWh に拡大したが、前年度の伸び率 7.0%から鈍化した。電源別に見ると、水力+8.9%、原子力+18.2%、再エネ+11.8%となった一方で、石炭火力は+3.0%と前年度の+9.9%から減速し、総発電量に占める割合も前年度の 72.4%から 71.1%に縮小した。
- ・インド気象局 (IMD) は、4 月から 6 月にかけての最高気温が平年を上回り、地域によっては厳しい熱波に直面する可能性を予測している。今後、冷房用電力需要が高まることで石炭燃焼量が増加し、国内炭増産政策を推し進めている状況下において発電所向け一般炭輸入量が押し上げられることが予想される。

韓国

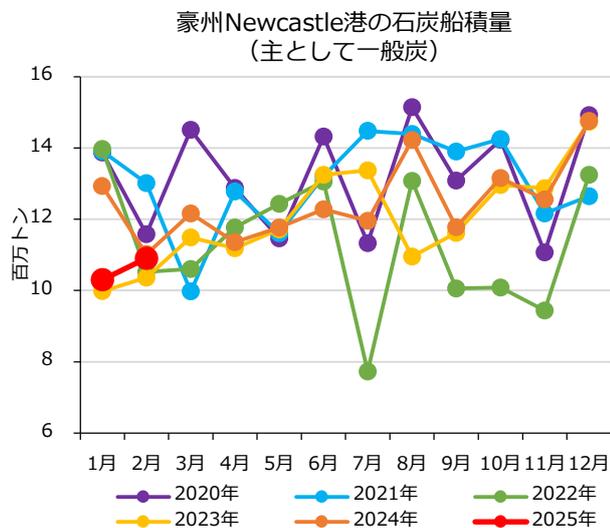
- ・韓国の貿易統計によると、2 月の一般炭輸入量は前年同月比▲19.0%、前月比▲9.4%の 626 万トンに減少した。主な調達先は、インドネシア 236 万トン (構成比 38%)、ロシア 90 万トン (同 14%)、豪州 87 万トン (同 14%)、コロンビア 92 万トン (同 15%) および南ア 62 万トン (同 10%) の順。世界的に一般炭市況が軟化している中で、豪州炭の輸入量が前月比▲36.7%と大幅減少したのに対して、コロンビア炭は前月比+52.7%と激増した。コスト競争力の優位性が薄れているロシア炭および南ア炭は前月に引き続き減少傾向にある。

日本

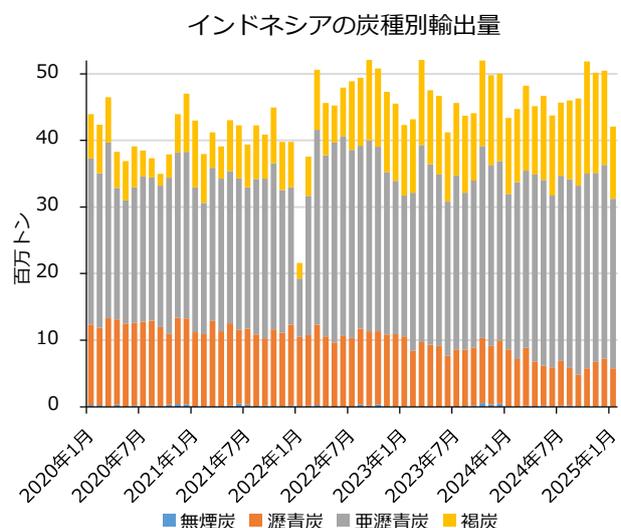
- ・ 財務省貿易統計が発表した石炭貿易統計値に基づく2月の一般炭輸入量（利用実態に合わせて補正）は、前年同月比+12.3%の1,011万トンと増加したが、平年と比べると低い水準にとどまった。
- ・ 一般炭（瀝青炭）の1トン当たりの平均輸入単価は、ピーク時の2022年11月の約6万円から徐々に値下がりする中、前年同月より4千円程度低下し約2万2千円となった。

EU

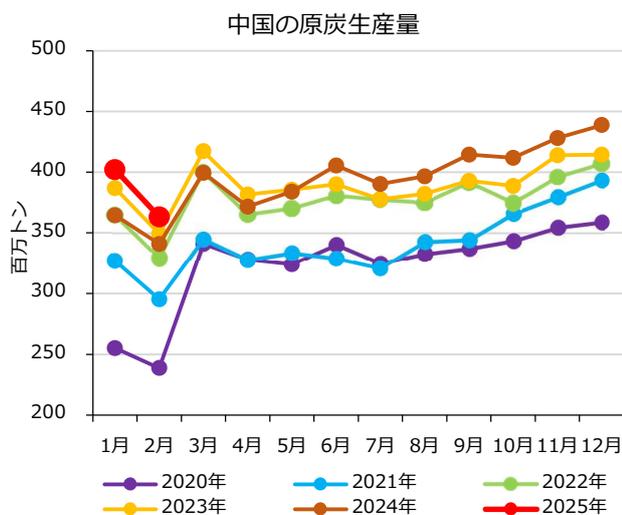
- ・ 欧州連合統計局（EUROSTAT）によると、1月のEU域外からの一般炭輸入量は前年同月比▲0.8%、前月比+0.2%の376万トンとなった。主な輸入元は、コロンビア134万トン（構成比35.5%）、豪州73万トン（同19.5%）、米国60万トン（同16.0%）、南ア57万トン（同15.1%）、カザフスタン42万トン（同11.1%）の順。



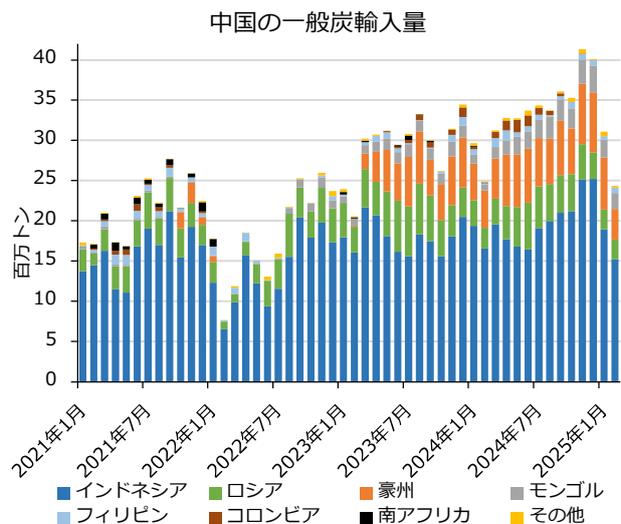
出所：Newcastle 港の月次貿易報告



出所：インドネシア中央統計庁

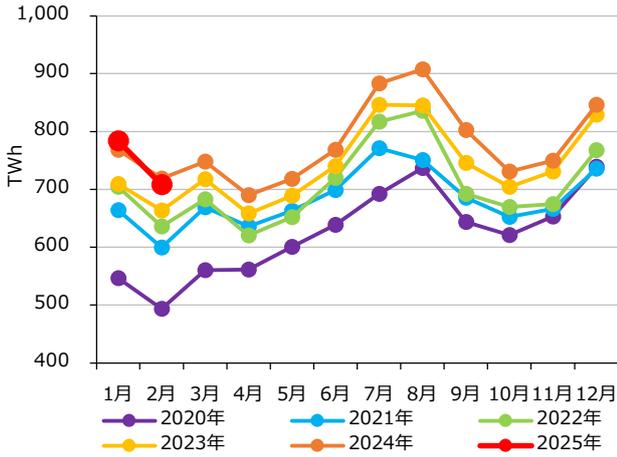


出所：中国国家統計局



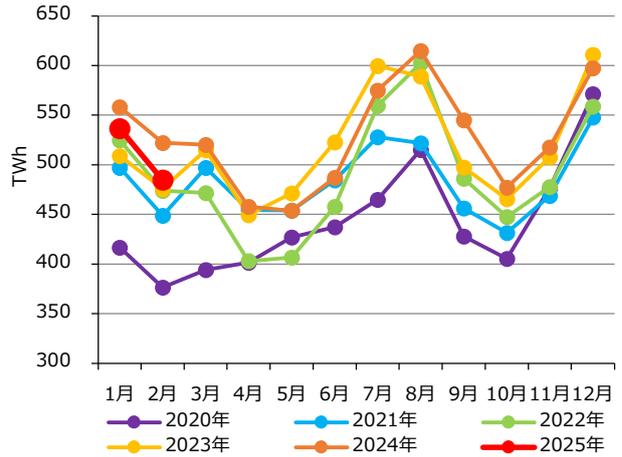
出所：中国海関総署

中国の総発電量



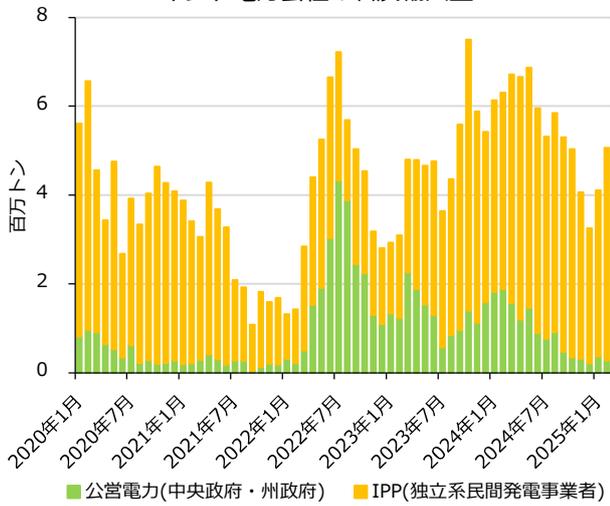
出所：中国国家統計局

中国の火力発電量



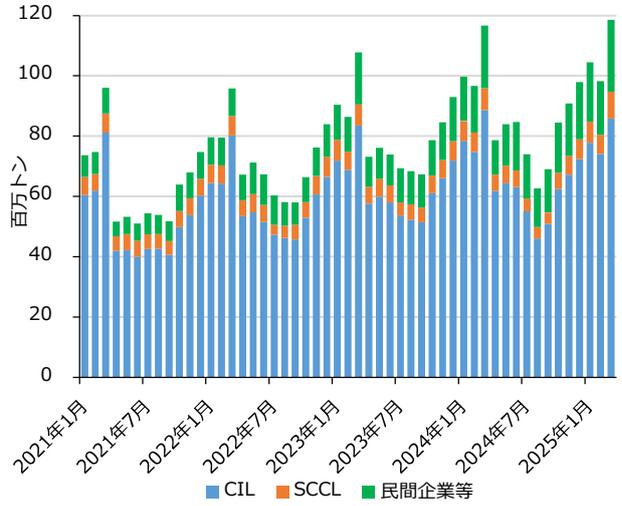
出所：中国国家統計局

インド電力会社の石炭輸入量



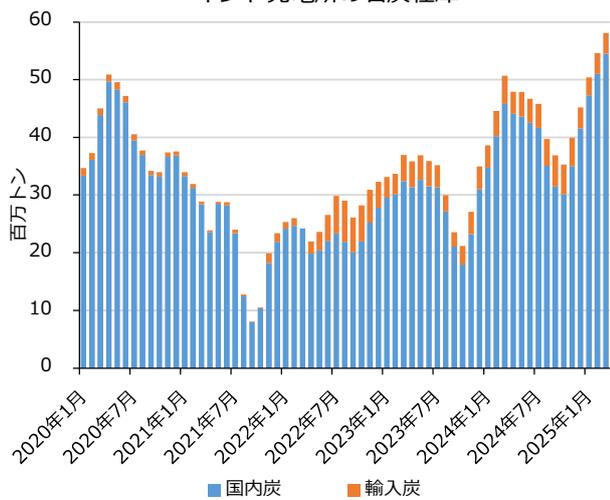
出所：インド中央電力庁

インドの国産炭生産量



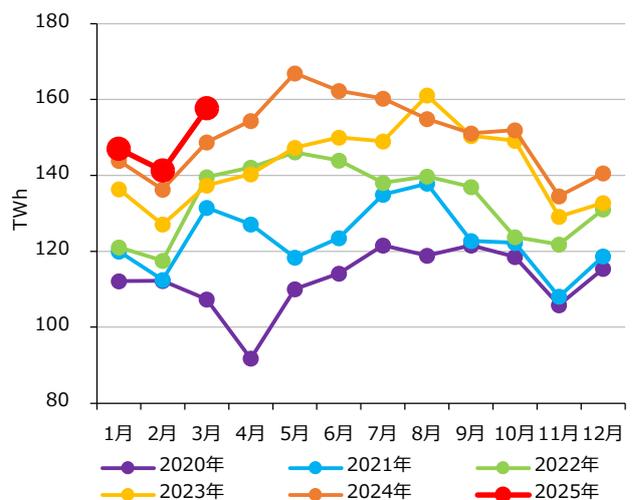
出所：インド石炭省

インド発電所の石炭在庫



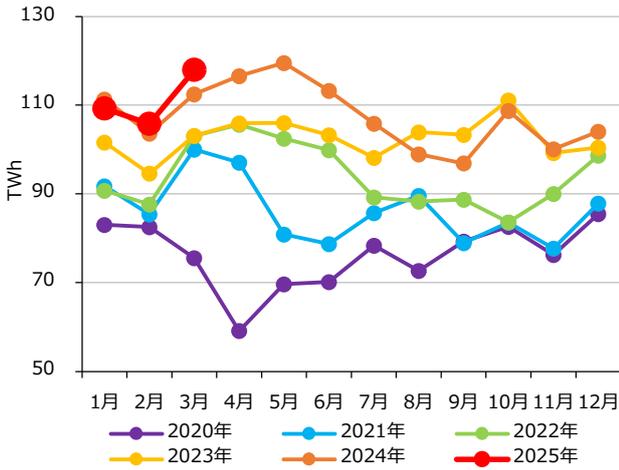
出所：インド中央電力庁

インドの総発電量



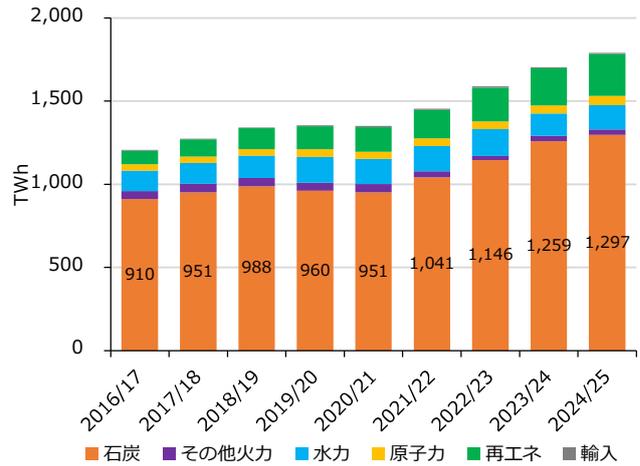
出所：インド中央電力庁

インドの石炭火力発電量



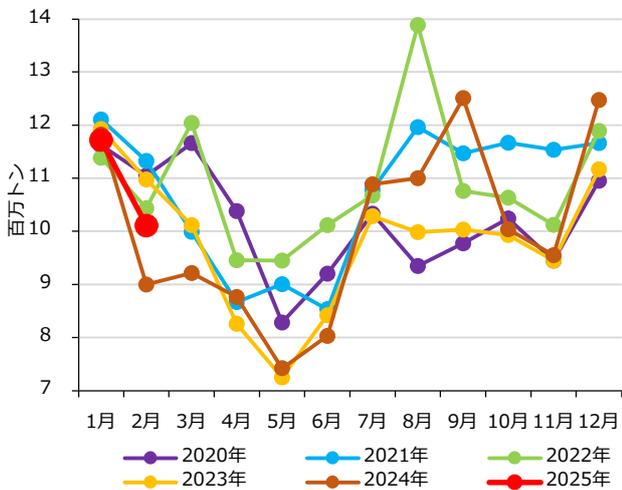
出所：インド中央電力庁

インドの総発電量(年度別推移)



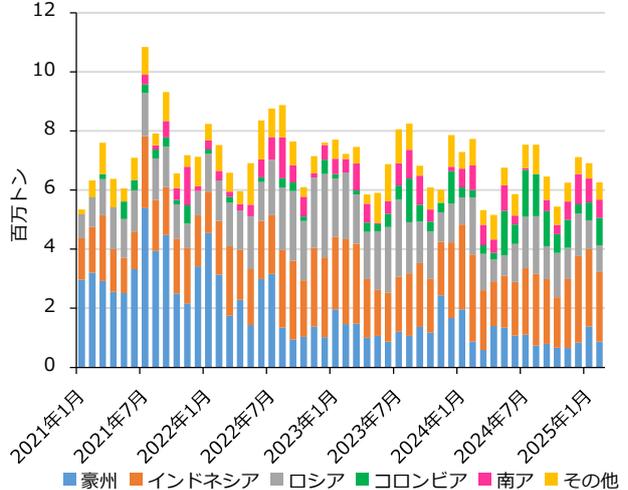
出所：インド中央電力庁

日本の一般炭輸入量



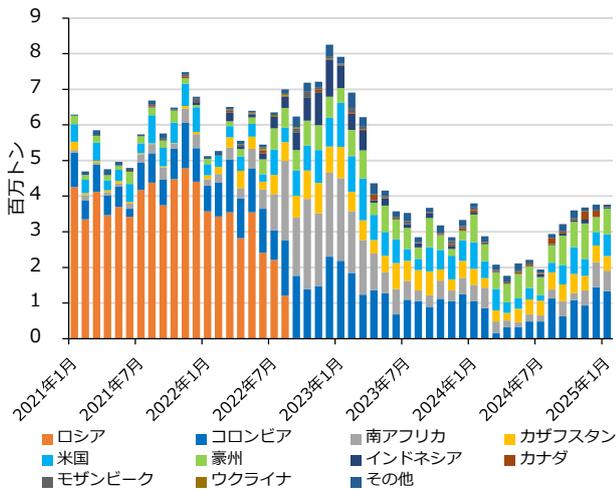
出所：財務省貿易統計
統計品目番号(HSコード)2701.12.019のうち、インドネシア、米国、コロンビア、カザフスタンからの輸入量を、利用実態に合わせて一般炭に分類。

韓国の国別一般炭輸入量



出所：韓国貿易統計

EUの一般炭輸入量



出所：欧州連合統計局

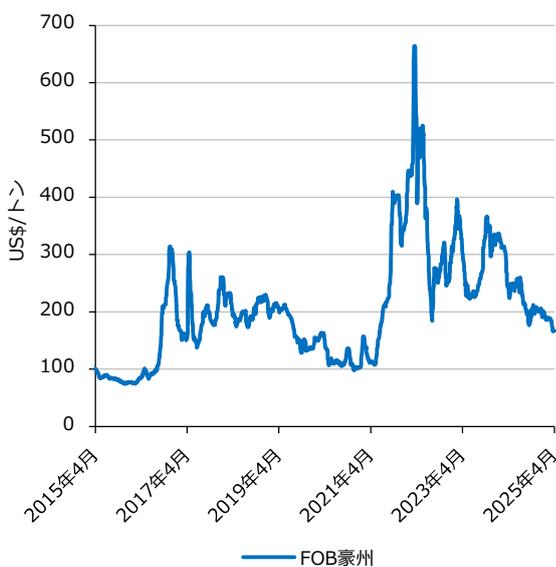
原料炭の価格推移

強粘結炭 FOB 豪州価格は、2021 年に入りコロナ禍から経済活動が再開され鉄鋼需要が増加する中、豪州での雨期の悪天候やコロナウイルスの影響による労働力不足に起因する生産・輸送の停滞により高騰し、加えてロシアによるウクライナ侵攻により、ロシア炭の他ソース代替への動きは一般炭程強くないものの、心理的影響もあって一時的に 600\$/トンを超えた。その後、産炭国の天候回復および鉄鋼需要の低迷により急落し、2022 年 8 月には約 200\$/トンまで値下がりした。2022 年 12 月以降は、中国のゼロコロナ政策の撤廃による鉄鋼需要増加の期待、豪州 QLD 州北部の天候悪化、QLD 州の石炭輸送鉄道の事故等の影響により値上がりし、2023 年 2 月下旬には 400\$/トン近くまで上昇したが、豪州における天候回復や鋼材需要低迷の長期化から値下がりに転じた。その後、インドの好景気に牽引されて原料炭需給はタイト化し、2023 年 10 月には 360\$/トンを超える局面も見られたが、世界的な鉄鋼需要の低迷を背景に下落基調となり、2024 年 8~9 月には 200\$/トンを割り込んだ。9 月下旬の中国による景気刺激策発表により一時的に上昇する局面もあったが実需は低調で市況の浮揚力に欠いたことから、その後は横ばい~弱含み、12 月下旬以降は再び概ね 200\$/トンを下回る水準で推移した。

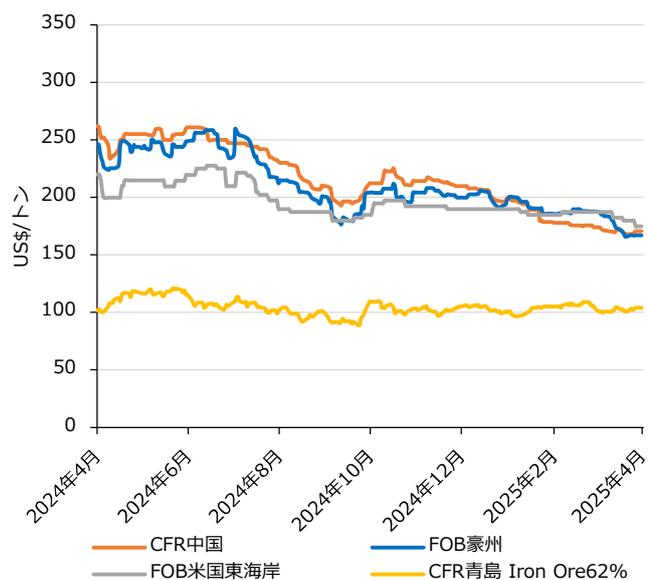
強粘結炭 FOB 豪州スポット価格の 3 月の動きを振り返ると、アジア市場での鉄鋼需要の低迷を背景にスポット取引は限定されて下落基調が続き、月初の約 188\$/トンから 3 月 20 日の約 166\$/トンまで続落した。その後、インドのモンスーン前の在庫補充に向けた購入意欲の高まり等から僅かに回復し、下旬は 167\$/トン前後のレンジ相場で推移した。

中国では 3 月 5 日に開幕した全人代（全国人民代表大会）において 2025 年の経済成長率 5%前後の目標が示された中、鉄鋼産業に関しては貿易摩擦の要因になっている過剰生産を抑制させる狙いから減産を進める方針が表明されたことで、市場心理が弱まり購買意欲は低下している。全人代では具体的な減産目標数量は示されなかったが、北西部の少なくとも 4 か所の製鉄所が 3 月 25 日から一日当たりの粗鋼生産量を 10%削減することを発表した。供給過剰と需要低迷で在庫が積み上がる状況下で、国内の原料炭価格は軟化し、国際市況の下押し圧力となっている。

過去10年の豪州強粘結炭スポット価格



過去1年の強粘結炭指標スポット価格



出所：Argus Media Limited (<https://www.argusmedia.com/en>) のデータを基に作成

原料炭の需給動向

豪州

- ・ QLD 州主要 4 港のうち Gladstone 港の 3 月の石炭船積量は 545 万トンとなり、アジア市場での鉄鋼需要および一般炭輸入需要の低迷で大幅減少した前月からは回復（前月比+35.2%）したものの、前年同月比ではマイナス伸び率（▲2.7%）となった。インド向けは前年同月比+25.5%の 112 万トンと好調であったが、中国向けが同▲53.5%の 64 万トン、日本向けが同▲29.9%の 156 万トンに縮小した影響が大きい。
- ・ 3 月上旬、東海岸沖に発達したサイクロンによる暴風雨の影響で、Hay Point 港と Dalrymple Bay 港の石炭ターミナルでは荷役を一時停止した一方で、炭鉱操業への直接的な影響は限定的であった模様。
- ・ メディア報道によると、3 月 31 日、Anglo American が操業する QLD 州 Moranbah North 原料炭炭鉱（2024 年の生産量約 300 万トン）で高濃度の一酸化炭素が検出されたため、作業員を避難させて操業を停止した。アジア市場でのコークス炭需要が弱いため、原料炭市況への影響は限定的と見られる。なお、同州にある Anglo American の Grosvenor 原料炭炭鉱では、2024 年 6 月末にメタンガス着火による坑内火災が発生し操業を停止している。

中国

- ・ 海関総署の発表による 1 月の原料炭輸入量は前年同月比ほぼ横ばいの 1,000 万トンとなり、1 月単月としては高い水準を維持した。主な輸入先は、モンゴル 328 万トン（構成比 33%）、ロシア 271 万トン（同 27%）、米国 136 万トン（同 14%）、豪州 122 万トン（同 12%）の順。2 月の原料炭輸入量は前年同月比+12.4%の 885 万トンとなり、1 月に引き続き単月としては高水準。主な輸入先は、モンゴル 316 万トン（構成比 36%）、ロシア 258 万トン（同 29%）、米国 127 万トン（同 14%）、カナダ 116 万トン（同 13%）の順。1 月と比べると、インドネシア炭が▲81%、豪州炭が▲55%と顕著に減少した。
- ・ 国家統計局の発表による 1~2 月の銑鉄および粗鋼の生産量は、それぞれ前年同期比▲0.5%の 1 億 4,075 万トンおよび同▲1.5%の 1 億 6,630 万トンといずれも前年実績を下回り、2024 年第 4 四半期（10~12 月）のプラス伸び率からマイナスに転じた。一方、鋼材生産量は前年同期比+4.7%の 2 億 2,409 万トンと前年を上回るも、2024 年 11~12 月の 5~7%の伸び率からはやや減少した。
- ・ 中国鋼鉄工業協会が発表した主要鉄鋼メーカーによる 3 月の平均粗鋼日産量は 214 万トンとなり、前年同期比+3.0%で 6 か月連続の増加傾向となったが、3 月上旬の全人代で表明された減産方針を背景に前月より 1.6%減少した。

日本

- ・ 財務省貿易統計が発表した石炭貿易統計値に基づく 2 月の原料炭輸入量（利用実態に合わせて補正）は、前年同月比▲19.6%の 293 万トンに減少し過去 10 年間で最低水準となった。2 月の強粘結炭 1 トン当たりの平均輸入価格は約 3 万 2 千円となり、2024 年 3 月の約 4 万 8 千円から 10 か月連続で下落傾向にある。
- ・ 日本鉄鋼連盟が発表した日本の 2 月の粗鋼生産量は前年同月比▲8.5%、前月比▲5.7%の 640 万トン（内、転炉鋼は 466 万トン）で、長期化する国内鋼材需要の低迷を背景に 12 か月連続の前年割れと

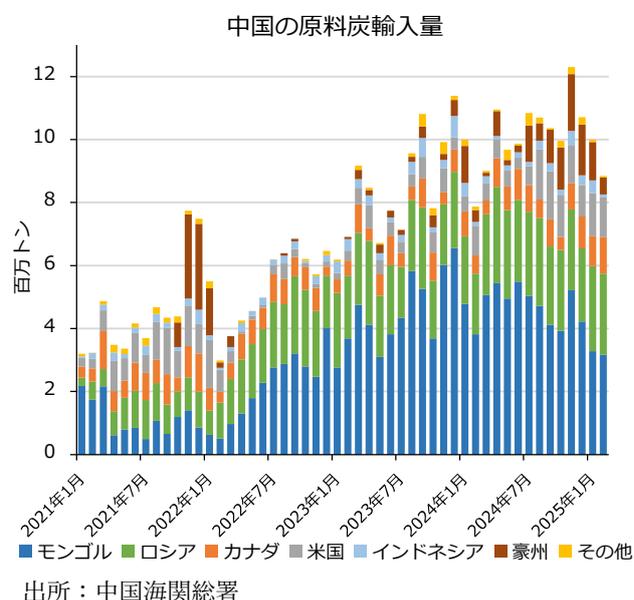
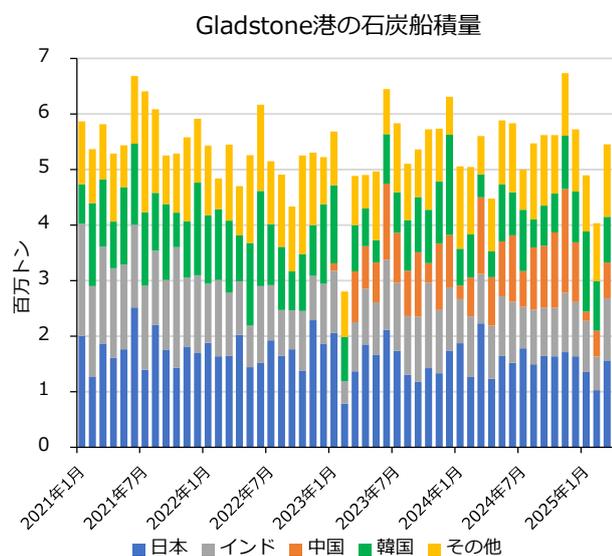
なった。一日当たりの生産量は22.9万トンで、前月より4.4%の増加となった。

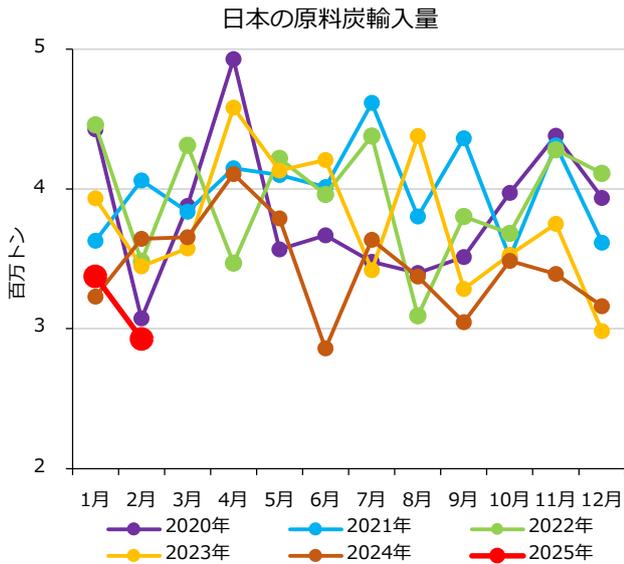
EU

- ・ 欧州連合統計局（EUROSTAT）の発表による1月の欧州域外からの原料炭輸入量は、前年同月比▲28.7%の194万トンに減少し、前月に引き続き200万トンを下回る低水準となった。米国（93万トン）および豪州（71万トン）の2か国で全体輸入量の84%を占める中、カナダからの輸入量が前月比+268%の13万トンに拡大した。

粗鋼生産

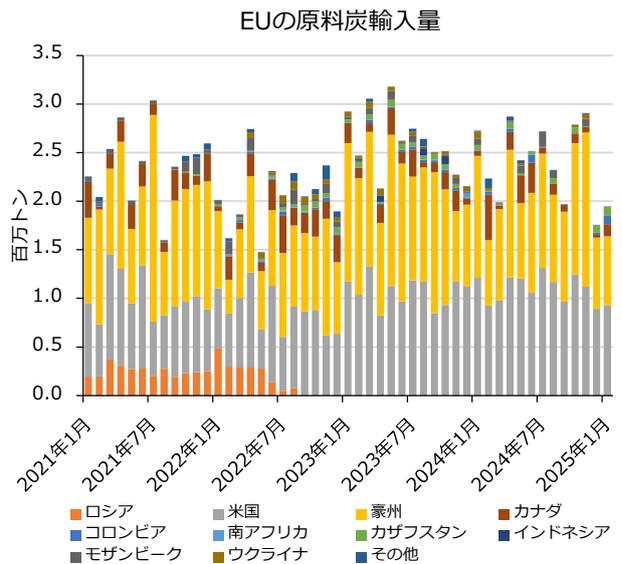
- ・ 世界鉄鋼協会のまとめによると、2月の世界の粗鋼生産量は前年同月比▲3.4%の1億4,470万トンに減少した。鉄鋼需要低迷が長期化する中国の減産（前年同月比▲3.3%の7,890万トン）が大きく影響し、2か月連続でマイナス伸び率となった。一日当たりの生産量は517万トンで、前月から5.8%増加した。
- ・ 中国に次いで世界第2位の粗鋼生産国であるインドの2月の粗鋼生産量は、前年同月比+6.3%の1,270万トンとなり、前月に引き続き単月では過去最高を記録して高い水準を維持した。一日当たりの生産量についても45万トンで過去最高水準となった。
- ・ 主要鉄鋼生産国のなかでインド以外に前年実績を上回ったのは韓国（前年同月比+0.7%の520万トン）のみで、日本640万トン（同▲8.5%）、米国600万トン（同▲7.0%）、ロシア580万トン（同▲3.4%）、トルコ290万トン（同▲5.6%）、ドイツ270万トン（同▲13.5%）、ブラジル270万トン（同▲1.6%）など、軒並み縮小傾向となった。



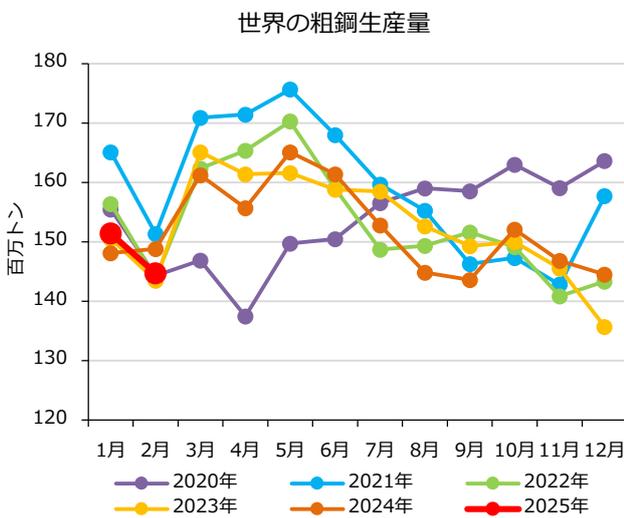


出所：財務省貿易統計

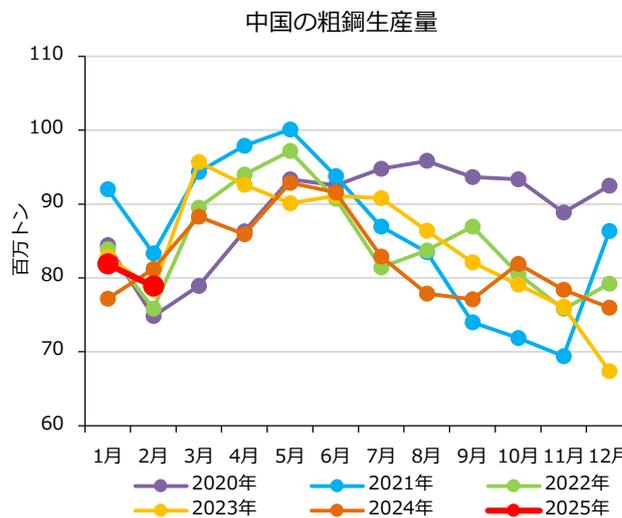
統計品目番号(HSコード)2701.12.019のうち、インドネシア、米国、コロンビア、カザフスタンからの輸入量を、利用実態に合わせ一般炭に分類。



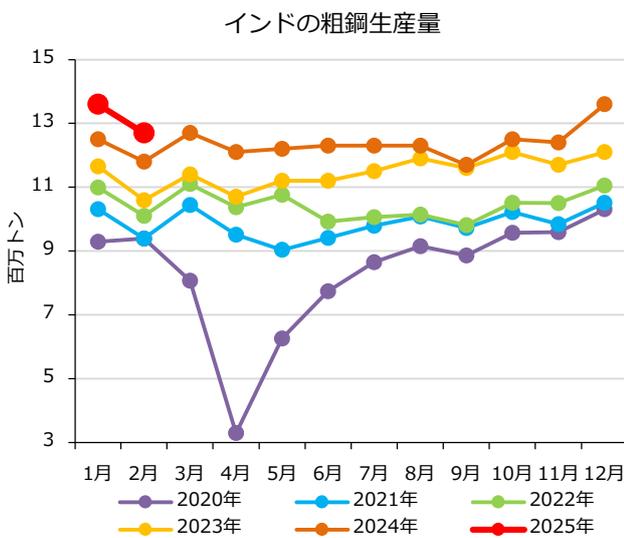
出所：欧州連合統計局



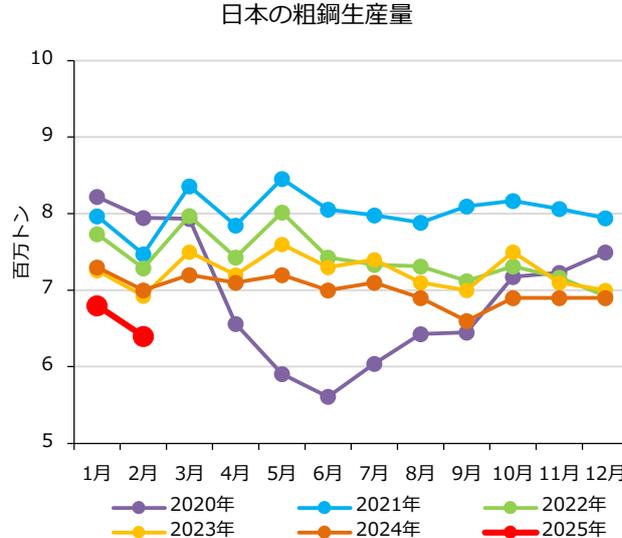
出所：世界鉄鋼協会



出所：世界鉄鋼協会



出所：世界鉄鋼協会



出所：日本鉄鋼連盟

おことわり：本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料を引用等する場合には、あらかじめ独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構から許可を受けてください。